

## 地球の歩き方 アルジェリア

1983年6月11日。退職時に会社から受け取った「社員経歴」によると初めてのアルジェリア事務所勤務の発令日です。通常発令後一か月以内に駐在していることよりアルジェリアとの邂逅は1983年6月後半或いは7月初旬であったと思われます。サハラ砂漠からの砂塵を含んだ泥雨が時折降るラマダン期間中のとある一日でした。事務所は往年の名画「望郷」に映し出されたカスバ、Aletti ホテルにほど近いアルジェ港を見渡す高台の海岸通りにあり大変感激したのを昨日のように思い出します。

思えば事前出張も無い正に飛び込みのアルジェリアとの長いお付き合いの始まりでした。勿論現在のように旅行案内、インターネットも無かった時代ですが事務所は駐在員家族を含め数十名の大所帯でありアルジェリア独立後二年目の1964年に始めて事務所を開設した日本企業としてアルジェリア全土で商売を展開しており駐在員が自分の足と目と耳で収集、蓄積した情報の共有があったことより「地球の歩き方」のような案内書は別段必要ありませんでした。但しフランスで買い求めた箱入りの分厚い Guide Bleu の案内書を念の為持参しました。

ご存じとは思いますがリビアからモロッコに広がるマグレブ四か国で「地球の歩き方」が書店で現在見当たらないのはアルジェリアのみとなっております。しかしながら調査結果、下記の二冊が大昔に出版されていることが判明しました。何れも日本の企業戦士が多くいた時代に出版されていたこととなります。

\* 「地球の歩き方 モロッコ、アルジェリア、チュニジア」(1985年)

\* 「地球の歩き方 フロンティア サハラ・アルジェリア」(1989年)

アルジェリアは独立以降、重化学工業化を押し進めた過去の経緯と炭化水素資源に恵まれたアフリカ最大面積の国であり観光産業への依存度の高いモロッコ、チュニジアとは異なり入国の際の諸手続きも複雑、親切とは言えませんが一度中に入れば寛大でオープンな庶民が歓迎してくれる国と言えるでしょう。更に観光がそれ程重要産業でないことが逆に功を奏し素朴で昔と変わらない人と風土に出会う楽しみも残されており。アルジェリアは華やかな観光ではなく「何でも見てやろう」精神で旅に出かける土地と言えるかもしれません。

コロナ禍も未だ収束したとは言い難くアルジェリアへの旅の準備期間或いは英語国民が言うところの「肘掛椅子の旅人(Armchair traveller)」として皆様が旅を楽しむ下準備のお役に立てればと思ひ手持ちの書籍から下記をお勧めしたいと思ひます。昨今は便利な世の中となり Amazon 等で洋書も中古本含め購入可能ですしインターネットで種々検索し情報を収

集することも可能です。但し、残念ながら日本で出版されているアルジェリア関連図書は極めて限られており諸外国語の素養があればチョイスも増え視野も一層広がると思います。

1. 「美しいアルジェリア 7つの世界遺産を巡る旅」地球の歩き方 Gem Stone  
写真・文 大塚雅貴 ダイヤモンド社 2011年初版  
名所旧跡案内に加えホテル、レストラン、ショッピング等の追加情報が一体となった所謂「地球の歩き方」ではありませんがアルジェリアの名所旧跡、歴史、文化案内と素晴らしい写真が豊富で読み物としても楽しめアルジェリア愛好家必携の一冊です。
2. 「アルジェリアを知るための62章」  
私市正年（編著） 明石書店 2009年初版  
日本アルジェリア協会理事、上智大学名誉教授が編著者であるアルジェリアの知恵袋的書籍。当該国の自然、歴史、文化、政治経済、日本との関係等々の幅広い知識を携え現地を訪問するとは理解を一層深め旅人として必須条件です。
3. Michelin road map 172 Algeria – Tunisia  
Michelin road map 153 Africa  
日本の6.5倍の国土を誇るアフリカ最大のアルジェリアの地図も必携。地図番号は変更になっている可能性もあります。
4. Lonely Planet Algeria 2007年初版  
世界的に有名な Lonely Planet のアルジェリア一人旅向け案内書。アルジェリアのガイドブックは極めて珍しいです。
5. Dictionnaire amoureux de l'Algerie (アルジェリアを愛する人の事典)  
Malek Chebel 著 Plon (フランス) 2012年初版  
フランスに帰化した Skikda 生まれの著者の作品。アルジェリアに関連する種々テーマに関するエッセー的な文章で興味深い。アルジェリアでよく言われる Analphabetes trilingues (三か国語を操る文盲) では三ページを費やしているなど A から Z 迄のキーワードに関しフランス語の素養があれば大いに楽しめる書籍。次回フランス訪問時に Fnac 辺りでお買い求めください。
6. Dictionnaire Encyclopedique de l'Algerie (アルジェリア百科事典)  
Culture – Politique – Societe – Histoire – Personnalites – Lieux – Evenements  
Achour Cheurfi 著 Editions ANEP (アルジェリア) 2007年初版  
全1230ページの大著。手元にある「古代エジプトを知る事典」とか「シルクロ

ド事典」と言った類の「アルジェリアを知る事典」と言える素晴らしい一冊。

---

初めての駐在当時、日々Zighoud Youcef 大通りから見下ろしたアルジェ港の旅客棧橋からはアルジェリア独立後多くの「黒足 (Pieds-Noirs)」が後ろ髪を引かれる思いで住み慣れたアルジェリアに別れを告げておりますが最近「ピエノワール列伝」という興味深い書籍に遭遇しましたのでピエノワールに関連した書籍など併せて下記ご紹介しておきます。

1. 「ピエノワール列伝 人物で知るフランス領北アフリカ引揚者たちの歴史」

(副題 Dictionnaire des Pieds-Noirs)

大嶋えり子著 合同会社パブリカ 2018年初版

---

Albert Camus, Yves Saint Laurant, Enrico Macias, Bernard-Henri Levy, Claude Lelouche 等直ぐに思い出す方も多いのでは思いますがピエノワールの簡単な歴史と人名辞典的な書籍で学術書でない一般向け図書。アルジェリア以外にモロッコ、チュニジア生まれも含む。

2. Alger d'hier et de toujours (昨日と何時ものアルジェ)

Alain Vircondelet 著 Jean-Pierre Stora 写真

l'Archipel (フランス) 2015年初版

---

フランス統治時代のアルジェの生活が文章と豊富な写真で語られたお勧めの書籍。

3. CD Enrico Macias l'Oriental EMI 2000年

---

アルジェリアへの望郷を歌った名曲24曲CD。個人的には延べ16年生活したアルジェを懐かしむ気持ちは Enrico Macias とのシャンソンの数々が代弁してくれ心が癒されます。

では良い読書と良い旅を。Bonne lecture et bon voyage!

渡部秀文

